平成２８年度道徳教育実践研究事業実績報告書

1　研究指定校の概要

指定校名	小松島市南小松島小学校
校長氏名	増田章生
所　在　地	徳島県小松島市小松島町高須３６
電話番号	0885 -32-0149
U　R　L	http://e-school.e-tokushima.or.jp/komatsushima/es/minamikomatsushima/html/htdocs/

2　研究課題

（１）研究主題

心の活力を育む道徳教育

～人，社会，自然との豊かな関わりを通して～

（２）設定理由

本校では，家庭・地域社会・関係諸機関との連携のもと，地域の人や文化・自然と関わる様々な体験活動を行ってきた。また，児童一人一人の豊かな人間性や社会性を育むために，創意工夫ある体験活動を積極的に推進してきた。

これらの学習活動の中で，他者とかかわり，伝え合い，互いを理解する「コミュニケーション力」の育成を図り，共によりよく生きようとする「心の活力」を培うことが肝要であると考えた。

そこで，平成２７年度の研究実践から得られた成果を生かし，様々な体験活動の中で自分の思いをしっかりともち，他者と繋がり，より良く生きていくための「心の活力」を育む道徳教育の実現を目指し本主題を設定した。

3　研究の概要及び特色

（概　要）

今年度は「体験的活動の充実」,「評価方法の改善」,「授業の改善・充実」,「アンケート結果及び家庭への啓発」の四つに観点をしぼり，道徳教育の推進を図ることとした。

（特　色）

①体験活動を通して

本校では，児童会が中心となって代表委員会を立ち上げ，児童の意見をできるだけ集めることができるように努力している。その結果，今年度も全児童が「あいさつ運動」・「ペア読書」・「スマイル集会」・「ふれあい遠足」に参加し「ハタチ基金」に協力した。また，総合学習と関連させての学習も展開した。（３年生：「心ぽかぽかふれあい会」，４年生：「タイムトラベル in 小松島」，５年：「リフレッシュ瀬戸内」６年：「能楽体験」）

（ア）あいさつ運動

昨年度は児童会役員だけが「あいさつ運動」を実施していたが，今年度は全委

員会で分担し，毎週火曜日に「あいさつ運動」を実施した。運動用のタスキも新たに用意し，正面玄関・児童玄関などを中心に「あいさつ運動」を行うことで進んで挨拶ができる児童が増加しつつある。

（イ）ペア読書

毎月１回，朝の活動時にペア学年で本の読み聞かせを行う「ペア読書」を実施している。高学年の児童は低学年に喜んでもらえる本を選び，教室を訪問して読み聞かせを行う。低学年の児童も心待ちにしており，上手に読めるようになった国語の教科書をペアの児童に聞いてもらうなど，生き生きとふれあい，活動する姿が見られた。

（ウ）スマイル集会

集会委員会が中心となって企画する全校集会。保健委員会・図書委員会・人権委員会・リサイクル委員会・給食委員会などの多数の委員会も協力し，全児童に日常生活における問題を提起。異学年構成のスマイル班で問題を考えたり，クイズに挑戦したりした。全校児童で取り組めるゲームも取り入れ，共に楽しむことができた。

（エ）ふれあい遠足

１年生と６年生，２年生と４年生，３年生と５年生がペアとなり，年に一回ふれあい遠足を実施。南小松島小学校から徒歩で３０分～４０分ほどかかる公園や市営グランドに出かけ交流した。一緒にお弁当やおやつを食べ，上学年が計画したゲームを楽しむことで，年下の友達をいたわったり年上の友達を尊敬したりする気持ちが深まっている。

（オ）ハタチ基金

東日本大震災の被災地の子供たちに寄り添い，２０１１年から２０年間に渡り継続的に支援を行うハタチ基金にも参加している。児童会役員が基金の趣旨を分かりやすく説明し，各教室で募金運動を展開した。また，参観授業の後，保護者の皆さんにも募金の協力を呼びかけた。この募金をきっかけに，学年に応じて自然に対する畏敬の念や生命の大切さを学ぶことができた。

（カ）こころポカポカふれあい会

本校の社会福祉協議会と連携し，３年生が中心となって高齢者施設を訪問し交流している。１・２年生がしおりなどのプレゼント，４年生はプレゼントや手紙を入れる手書きイラスト入りの封筒，５・６年生はプレゼントに添える手紙を準備し，どの学年も間接的に参加している。３年生は，他の学年の友達の想いを大切にしながら歌やダンス，リコーダー演奏を披露し高齢者の皆さんと交流を楽しむことができた。

（キ）タイムトラベル in 小松島

４年生では，聞き取り調査をもとに郷土である小松島の昔調べをした。インターネットや書籍でも調べたが意外と情報は少なかった。そこで，元小松島市長の西川さんを講師に招き，地域のことについて詳しく教えていただき学習のまとめとした。児童の郷土小松島を大切に思う気持ちを大切にするき

っかけになった。

（ク）リフレッシュ瀬戸内

５年生は「受け継ごう，きれいで豊かな瀬戸内の海」の趣旨を理解し，「リフレッシュ瀬戸内」の海岸清掃活動に参加している。小松島市民の手で海を守りたいと願い，早朝から家族ぐるみで参加し熱心に清掃活動に取り組む姿が多数見られた。小学生が参加できる数少ないボランティア活動になっている。

（ケ）能楽鑑賞

６年生を中心に，文化芸術による子供の育成事業として「能楽鑑賞」を実施した。４年生と５年生は能楽の解説と公演を鑑賞しただけだが，６年生は事前に稽古用 DVD を利用して舞・小鼓・大鼓の練習を行い，本番では京都能楽囃子方同盟会の皆さんと共演をさせていただいた。先人の努力と我が国の伝統・文化を知る素晴らしい機会となった。

②評価方法の改善

道徳科の指導は，１単位時間の指導だけで児童の成長を見取ることは困難であると考えられる。また，個々の児童の良い点を積極的に捉え，日常の指導や個別的な指導に生かすことが必要である。そこで，学習指導過程における指導と評価を一体的に捉え，児童の学習状況を的確に把握することも大切であると考えた。

学習指導過程における評価については，低・中・高の学年団で時間を設定し，互いに参観した教師間で協力しながら評価を得るようにした。事前に評価の観点を決めておき，児童観察と同時に指導方法や発問に対する評価を行い，次の授業に生かせるように心がけた。授業者本人も授業中のメモや板書記録・授業記録をもとに指導過程を振り返ることを大切にした。

一方，児童の学習状況を把握する方法として，授業記録や観察の他に児童自身の記述による意見や感想を重視し，家庭への啓発活動の一つとしても活用した。

（ア）道徳ノート「心のファイル」

１年生から６年生までの全児童が「心のファイル」（Ａ４版クリヤーポケットケース）を持ち，学習の過程が分かるように授業で使用した資料やワークシートを入れるようにした。学年が上がる時にはファイルも持ち上がるようにしている。

（イ）付箋の活用

道徳の授業に限らず，さまざまな場面で児童の心の変容を捉えることが出来ればと考え，本年度は感想を付箋（縦７．５㎝×横７．５㎝）に記すことも試みた。「スマイル集会」や「ふれあい遠足」の実施後，短時間で記入。学級ごとに付箋を画用紙に貼って掲示し感想や意見を共有化した。付箋の意見を低・中・高学年でまとめ学校全体にも掲示。最終的には，付箋を個々の児童に戻し，「心のファイル」に入れた。大きな文字しか書けない低学年児童にとってはやや困難で，掲示中に付箋の粘着力が弱まってしまう等の問題点もあったが，簡単に意見を共有できる点においては有意義だった。

（ウ）「わたしたちの道徳」の活用

２年間で使用するため，年度初めに計画的に使用出来るように低・中・高学年で話し合いを十分行い指導計画に記述した。「わたしたちの道徳」の記入欄を活用し，児童が感想を記入した後，定期的に家庭へ持ち帰り，家族からのメッセージも記入してもらうようにした。学校でどのような学習を実施しているかを知っていただく

良い機会になると同時に，児童も保護者に共感してもらったりアドバイスを記入してもらったりすることで学習内容を振り返ることが出来ていた。

（エ）ワークシートの活用

道徳の授業で用いるワークシートについては，試行錯誤を重ね，読み物資料・学年・学級・児童の実態に応じて様々な形式で活用した。児童の感想だけを記入する形式（大・小），資料の登場人物に宛てた手紙形式，児童の記述欄とチェック項目がある形式，表に児童の記述欄があり裏にチェック項目がある形式などが見られた。あくまでも児童の思いや気持ちの変容などを知る手立てとして用いることを重視し，児童の考えを誘導してしまう可能性のある表記は避けるように注意して作成した。

③授業の改善・充実

平成２８年度は，本校において徳島県小学校道徳教育研究大会小松島大会を１１月８日（火）に開催した。そこで４月より校内での研究組織を立ち上げ，本校における今までの道徳教育を見直す一方で，環境整備を整えながら授業研究を行い，新しい「特別の教科　道徳」の授業のあり方について模索してきた。

今年度は，第２学年・第４学年・５学年が校内での研究授業を実施し，第１学年・第３学年・第６学年が小松島大会において授業を公開した。

学年	主題名	項目	資料名	出典
１年	やさしいこころ	B-(6)	かくれんぼ	県副読本 「どうとく１年」
２年	正直な心	A-(2)	お母さん ごめんなさい	県副読本 「どうとく２年」
３年	心から心へ	B-(6)	心を結ぶ １本のロープ	学校図書 「かがやけみらい４年」
４年	その先に相手の 笑顔が見えますか	C-(11)	雨のバス停留所	「わたしたちの道徳」
５年	他の人の 立場にたって	B-(７)	くずれた 段ボール箱	県副読本 「道徳　５年」
６年	広い心	B-(11)	折れたタワー	日本文教出版 「あすをみつめて　６」

いずれの学年においても講師の先生を招き，全職員で検討を重ねて指導案を完成させた。それぞれの学年で得た成果と課題を来年度に生かしたい。以下は，実践例の一部である。

《第１学年の授業実践》

１　主題名　やさしい　こころ

２　主題設定の理由（一部略）

〈ねらいとする価値について〉

B-(6)思いやり・親切	身近にいる人に温かい心で接し，親切にすること

相手を思いやることは，他の人に接するときの基本的な姿勢であり，よりよい人間関係を築くための基盤となるものである。思いやりとは相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り，相手に対してよかれと思う気持ちを向けることである。相手の存在を受け入れ，よさを見いだそうとする姿勢が求められる。そのためには，幼い人や高齢者，友達など身近にいる人に広く目を向けて，温かい心で接し，親切にすることの大切さについての考えを深められるようにするこ

とが必要である。

〈子供の実態について〉

本学級の子供は,交流関係も広がり，困っている友達がいると自分から声をかけたり，助けたりすることができるようになってきた。上級生には，学校探検や掃除，給食の補助，絵本の読み聞かせをしてもらう中で，感謝の気持ちをもちながら接することができた。このように人に優しくすることの喜びや優しくされることの温かさを感じることができている。しかし，自分と親しい相手にだけ親切にしたり，相手の立場や気持ちを考えない行動をしたりすることもある。

そこで，困っている人の立場や気持ちを考え，優しくすることの大切さを知り，親切にしようとする子供を育てていきたいと考えた。さらに，友達だけではなく，幼い人や高齢者など身近な人に広く目を向け，親切にしていこうとする心情へとつなげていきたい。

〈資料名〉かくれんぼ(県副読本「どうとく　１年」)

３　ねらい

まりこさんの気持ちを考えることにより，相手を思いやる温かい心が親切な行動につながったことに気付かせ，身近にいる幼い人に優しく親切にしようとする心情を育てる。

４　展開（一部略）

学習活動	指導上の留意点
1 好きな遊びをしているときの気持ちを思い出す。 ○　好きな遊びは何ですか。 ・おにごっこ・ドッジボール・鉄棒	○　好きな遊びをしている時の気持ちを思い出させることで資料への関心を高める。
2　資料を読んで話し合う。 ○ どうしてまりこさんは，みかちゃんをすぐに助けずにすべり台の後ろに隠れたのでしょう。 ・どうしようか迷っているから。 ・かくれんぼがおもしろいから。 ・早く隠れないと見つかってしまう。 ○　隠れているまりこさんはどのようなことを考えているでしょう。 助ける ・困っているんだろうな。 ・かくれんぼならまたできる。 ・声をかけてあげようかな。 かくれんぼを続ける ・かくれんぼがしたい。 ・誰かがたすけてくれる。 ・大したことはないよ。 ◎　かくれんぼをやめてまで，みかちゃんのところに走って行ったのは，どんな気持ちが強くなったからでしょう。 ・みかちゃんを助けたかった。	○　紙芝居の形で掲示することにより，子供を資料に入り込ませる。 ○　かくれんぼが大好きであるまりこさんの気持ちを共感的に捉えさせる ○　ペア・全体で葛藤劇を行い，話し合わせることにより，まりこさんの心の迷いを深く考えさせる。 ◇　まりこさんのかくれんぼを続けたい気持ちを十分に引き出し相手を思いやる温かい心が親切な行動につながったことに気付

・かくれんぼはいつでもできる。 ・自分が助けないといけない。 ・かくれんぼよりもみかちゃんを助けることが大事。 ・みかちゃんや友達が困っている。	かせる。 ○　最終場面に触れ，相手の喜びが自分の喜びとなることを捉えさせる。
3　自分たちの生活について振り返る。 ○　幼稚園に行ったとき，どのような親切ができましたか。	◇　六年生からの親切を重ねながら，幼稚園の友達に優しく接し親切にできた気持ちを思い出させることにより，これからも親切にしようとする気持ちを高める。
4　教師の話を聞く。	○　幼い人や友達など，身近にいる人の思いやりの心を持って親切にしようとする実践意欲を高める。

◇　主題にせまるための指導の工夫

5　評価

○人を思いやることについて考え，親切にすることの大切さに気付くことができたか。

○思いやりの心を持って身近な人々に接していこうとする意欲を高めることができたか。

④アンケート結果及び家庭への啓発

本校では，昨年度より児童と保護者を対象にして，夏と冬に道徳アンケートを実施し，その結果を基に道徳の指導計画を見直している。今年度はアンケートの結果をより明確に把握するために，新しい学習指導要領の内容を踏まえて改善したものを使用した。（Ｈ２８年度７月，１２月実施）

児童で肯定的な回答が多かったのは，「道徳の時間はためになる」「物事を最後までやり遂げて嬉しかったことがある」「将来の夢や目標に向かって努力する人間になりたい」「家の人や友達との約束を守っている」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「家族や友達，地域の人に役立つ人間になりたいと思う」

道徳アンケート　（　）年　男・女

〔　　〕高学年〔　　〕

NO	質　問	そう思う（できている）	どちらかといえば（できていると思う）	どちらかといえば（できていないと思う）	そう思わない（できていない）
1	「道徳の時間」の勉強は，好きである				
2	「道徳の時間」の勉強は，ためになると思う				
3	「道徳の時間」では，ほかの人の考えを聞きながら，自分のことについてよく考えている				
4	早ね，早起き，朝ごはんができている				
5	学校に持っていくものを，前の日にたしかめている				
6	身の回りのことをできるだけ自分でしている				
7	勉強する時間を決めて，実行している				
8	テレビを見る時間やゲームをする時間など，ルールを家の人と決めている				
9	家の手伝いをしている				
10	人として，してはならないことをしない（うそをつかない，人をきずつけない，人のものをとらない）				
11	自分にはよいところがあると思う				
12	ものごとを最後までやりとげて，うれしかったことがある				
13	むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょうせんしている				
14	しょう来の夢や目標に向かって，努力する人間になりたいと思う				
15	学校のきまりを守っている				
16	家の人や友だちとのやくそくを守っている				
17	人に出会ったときは，進んであいさつをしている				
18	人がこまっているときは，進んで助けている				
19	人の気持ちがわかる人間になりたいと思う				
20	いじめはどんな理由があっても，いけないことだと思う				
21	家族や友だち，地域の人の役に立つ人間になりたいと思う				
22	命はかけがえのないものだと思う（自分，ほかの人，動物，植物）				
23	学級活動では，たがいをみとめ合いながら話し合い，協力して楽しい学級生活をつくろうとしている				
24	学級の係活動やそうじをしっかりとしている				
25	児童会や学校行事などにおいて，学校の一員としての役わりや責任をしっかりと果たしている				
26	今住んでいる地いきが好きである				
27	今住んでいる地いきの行事やボランティア活動に参加している				

「命はかけがえのないものだと思う」という項目であった。反対に約半数が否定的な回答であったのは，「勉強する時間を決めて実行している」「テレビやゲームをする時間を家の人と決めている」「地域のボランティア活動に参加している」という項目だった。

保護者で肯定的な回答が多かったのは，「友達と仲良くし助け合う」「生きることを喜び生命を大切にする心を持つ」「先生を敬愛し学校の人々に親しんで，学級や学校の生活を楽しくする」の項目であった。反対に約半数が「当てはまらない，あまり当てはまらない」と回答したのは「自分の良いところに気づいている」「郷土の文化や生活に親しみ愛着を持つ」「他国の人々や文化に親しんでいる」の項目であった。

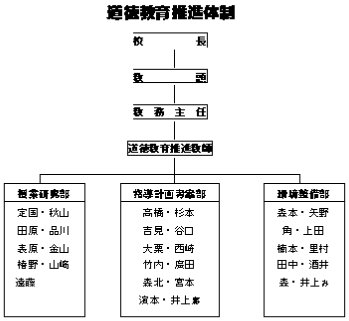
アンケート結果より，道徳の時間への興味・関心，善悪の判断，自尊感情，人との関わり・規範意識，生命尊重，集団生活それぞれについて肯定的な気持ちを持っている児童が多いことが分かった。平成２７年度の調査と比べても，児童の道徳的意識は向上してきているといえるだろう。

また，保護者から見た子供の道徳的な意識についても，人との関わり･規範意識について児童と同様に肯定的にとらえていることが分かった。しかし，基本的な生活習慣に関する項目や自尊感情，郷土愛については肯定的にとらえられている保護者が多くないことが分かった。「節度･自立」「勤労」「個性伸長」「愛国心」に関する項目では，平成２７年度の調査と同様に低く今後の指導が望まれる。

今後，保護者が道徳教育で力を入れて欲しいと考えている価値項目は「友情･信頼」「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にする」「礼儀」「思いやり」であった。

アンケートについては，保護者にも道徳便りとして配布した。保護者と共に家庭との連携を大切にしながら，道徳教育の実践に生かしていきたい。尚，アンケートは平成２９年度も引き続き実施する予定にしている。

4　研究の成果



○　校内道徳教育推進体制がはっきりしていたので，それぞれの立場で責任を持って役割を分担し進めていくことができた。また，各部との情報共有化を図るために，部会別研修の後で全体研修を持ち，話し合いの内容を報告し合う時間を設けたことで作業等の重複が無くなり能率的になった。

○　定期的なアンケート調査を継続して行うことで，児童の道徳的な価値についての実態を把握することができた。それだけでなく，児童自身にとっても自分の生活を振り返る機会になっていることが分かった。

○　アンケートを保護者にも実施することで，保護者の道徳教育に対する考えも知ることができた。また，アンケート結果を保護者に伝えることで，学校と家庭・地域が一体となって道徳学習を進めていくことの大切さを啓発することができた。

○　教材研究を含めた話し合いの時間を出来るだけ確保し１年～６年の各学年団，低・中・高学年団がそれぞれの立場で研修を進めていった。教材分析や授業研究については，経験のある教員も経験の浅い教員も共に協力して進めていくことで知識や技能の伝達や共有も行われ，教員間での学びも大きかった。

5　今後の課題

○年間指導計画の見直し

道徳科が各教科・外国語・総合的な学習の時間及び学校教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要としての役割をになっている。このことをふまえ，学習指導要領の「内容」の全てについて確実に指導することができるよう，２学年間を見通した年間計画の見直しを行っていきたい。

○教材の選択

児童の実態に合わせ，児童に考えさせたい道徳的価値がどのように含まれているか吟味し選択する。そのためには，幅広く教材を探し，学校で共有できるようにしなければならない。

また，教師自身も教材を熟読した上で教材分析を丁寧に行なっていくことが大切である。

○道徳科におけるアクティブ・ラーニングについての研究

従来は，登場人物の心情を読み取り道徳的価値を教え込む授業が多かったように思われる。そこで，子供が資料から道徳上の問題点を発見し，自ら考え判断し，互いに議論しあう中で現実世界でも生きて働く資質・能力を育成する授業を目指したい。

○子供同士の対話的学びを促すための工夫についての研究

・効果的な教師の発問のあり方を見直す
・児童の言語環境を整える
・学級経営のあり方を見直す

道徳科の指導を効果的に行えるようにするためには，教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係が大切である。日頃から一人一人が自分の考えや感じ方を伸び伸びと表現できる雰囲気の学級作りが大切である。

○ワークシートの工夫

今年作成したワークシートを基にしてさらに改善する必要がある。見つめるポイントがはっきり分かり，児童の考えを整理し，深めまとめる支援となるようなワークシートを作成する。学習の後振り返った時に自己評価の手がかりになるようなワークシートのあり方について研究することが必要である。

○児童の良さをのばす評価のあり方

児童の学習状況や道徳的な成長の様子を把握し，今後の指導に生かすための評価のあり方についての研究を進め南校独自の評価方法を模索する。発言や会話，日記，感想文・作文などを通して多面的・多角的な見方へと発展させたい。また，一年間を見据え年間３５時間の長い期間でのみとりも大切にしたい。

○地域社会・家庭との連携

今年度も児童の実態に応じて地域の方との交流を図った。道徳的な成長を願い，学年便りにも毎月道徳コーナーを設け，道徳における児童の学習内容を家庭にも知らせてきた。今後も地域社会・保護者との連携のあり方を見直していきたい。

本年度の研究は平成３０年度から完全実施される小学校学習指導要領「特別の教科　道徳」をふまえて，進めてきた。

学習指導要領が改正されてから２年。まだまだ先行研究も少なく手探りの状況であったが，校長のリーダーシップの下，道徳教育推進教師を中心として全教職員が協力して取組を進めることができた。徳島県教育委員会からも指導講師を派遣していただき「特別の教科　道徳」のあり方についても丁寧にご指導いただくことができ，我々が研修を進めることができたことは職員にとっては大変有り難いことであった。

平成２８年度に研究したことを土台にして，平成２９年度に本校で開催される徳島県小学校道徳教育研究大会に向かって今後さらに研鑽を積んでいきたい。